

# 黒大豆「作州黒」の産地化と担い手支援

—岡山県JA勝英の取組み—

主事研究員 尾高恵美

## 1 はじめに

お正月のおせち料理の主役といえば、黒豆があげられる。材料の黒大豆のうち、丹波種黒大豆の作付面積(2006年)は、岡山県が1,660haで、兵庫県の1,250haをしのいで国内第1位(JA勝英資料)となっている。今回は、岡山県の作付面積の約3割を占める勝英地域のJA勝英における黒大豆の産地化と担い手支援を取り上げる。

## 2 地域の特徴

JA勝英は、岡山県北部の美作市、津山市勝北地域、勝田郡勝央町、奈義町、英田郡西粟倉村の2市2町1村を管内とする。東部は兵庫県、北部は鳥取県と接する。農業は、稲作と畜産が中心である。

管内の農家数は4,682戸であり、複数の工業団地があり兼業機会に恵まれていることから、第2種兼業農家が69.2%を占めている。また、基幹的農業従事者数のうち65歳以上の割合は

78.1%と、全国平均の60.4%を大きく上回り高齢化が進んだ地域である。

## 3 黒大豆の産地形成

当地域で黒大豆の生産が本格的に始まったのは1970年ごろである。黒大豆生産は、当地の気候に適し、労働面で稲作と競合せず、新規設備投資は不要で収益性が高いため、転作面積の拡大を背景に普及してきた。その過程で、農業普及機関とJAが栽培指導を強化したこと、およびJAが施設を取得し、収穫、乾燥、調製、出荷といった一連の工程を請け負い、生産者の作業を省力化したことも、生産拡大に寄与した。

一方で、大産地であるものの、「丹波黒」という品種に比べて地域ブランドとしての浸透は遅れていたため、勝英地域産の丹波黒を「作州黒」と名付けて、普及に努めてきた。

作付面積は拡大してきたが、生産者の高齢化により、98年の760haをピークに徐々に減少している。

## 4 作州黒枝豆の取組み

従来、作州黒は、主に煮豆等の材料となる生豆の状態に雑穀商に販売していたが、07年度から、より高い収益性が望める枝豆として、東京市場を中心に出荷を始めた。食味がよく枝豆の出回りが少ない10月に出荷するため収益性は高いものの、生豆出荷に比べて収穫や選別作業に手間がかかるため、規模の拡大には限界がある。また、出荷に際しては、残留農薬対策と異物混入の防止など安全面での管



作州黒の圃場(JA勝英提供)



作州黒の枝豆(JA勝英提供)

理に注意が必要である。そこで当JAでは肥料、農薬、洗浄、選別、保管に関する18の管理点からなる独自のGAP規範(適正農業規範)を設け、出荷前に栽培管理日誌とともにGAPのチェックシートの提出を義務づけている。さらに、営農指導員が各農家を巡回して選別作業工程における異物混入防止を指導し、出荷前には金属探知機を使用して確認を行うなど、新たな産地化を目指して取組みを強化している。

## 5 担い手支援

### ——担い手部会の設置——

次に、担い手支援の活動について紹介する。近年の作州黒の作付面積の減少に表れているように、生産者の高齢化の進行に伴い、耕作放棄地が目立つようになり、農地の保全が難しい状況が生じてきた。そこでJAは、07年12月に担い手部会を立ち上げた。ねらいは、営農関連事業だけでなく、信用、共済事業も含めて総合的に担い手を支援することによって、耕作放棄地を解消し、担い手との緊密な関係を築くことである。JAが部会事務局を務め、視察等の活動のために助成金を支出している。担い手部会の特徴は、作目にかかわらず、当

JA独自の基準に該当する担い手を対象としていることである。

担い手の基準は、中山間地に該当する地域があることを加味して経営耕地面積(個人)2.6ha、露地野菜面積25a、施設栽培面積10a、販売高500万円以上、等のうち1つ以上に該当することである。生産者からの申請を受け、JAの各部署による認定会で加入審査を行っている。07年度の設立時の部会員数は100名だったが、09年度は185名、10年には200名へと増加した。

担い手支援のため、JAでは部会員に次のような各種優遇措置を設けている。資材価格の値引、資材代金の決済サイトの延長や農業融資の金利低減に加えて、土壌診断、先進地の視察、確定申告の講習会や戸別所得補償制度の研修会等を行っている。なかでも資材代金の決済サイトの延長は、資金繰り緩和に有効とのことである。また、担い手からJAへの要望を吸収する場としても位置付けられている。

担い手部会の活動を契機に、部会員同士による農地の利用調整に結びついた例もある。担い手部会の特徴が生かされた成果といえよう。

## 6 おわりに

当JAでは、収益性の高い作州黒の産地化に加え、生産者の高齢化に対応して担い手専門の部会を立ち上げ、生産活動を総合的に支援することにより、地域農業振興を図ってきた。作目横断の担い手の組織化により、JAの事業や担い手同士の連携が今後どのように展開するか注目していきたい。

### <参考資料>

- ・松岡潤(2001)「勝英地方における黒大豆生産」『全国黒大豆フォーラム資料』

(おだか めぐみ)